

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	27人	国語B	27人
② 算数A	27人	算数B	27人

5 留意事項

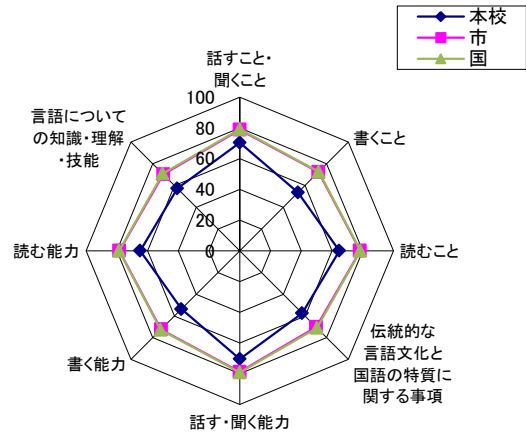
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

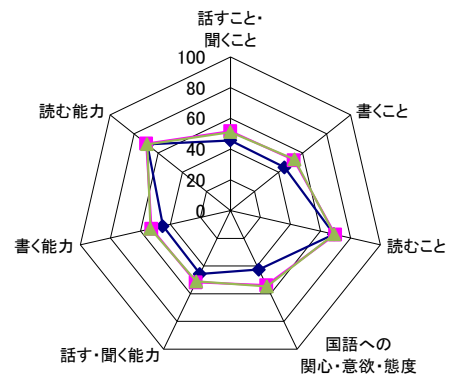
宇都宮市立上河内東小学校

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.4	78.8	79.2
	書くこと	53.7	72.4	72.8
	読むこと	64.8	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	57.4	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	70.4	78.8	79.2
	書く能力	53.7	72.4	72.8
	読む能力	64.8	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	57.4	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.7	51.7	51.1
	書くこと	45.1	52.7	53.4
	読むこと	69.1	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	42.6	53.8	54.7
	話す・聞く能力	45.7	51.7	51.1
	書く能力	45.1	52.7	53.4
	読む能力	69.1	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

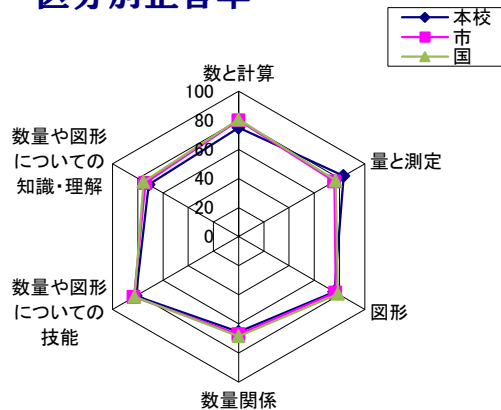
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●国語Aにおける領域の平均正答率は全国平均を下回っている。 ○国語Bにおける領域の目的に応じて質問したいことを整理する設問の正答率は、全国平均を上回った。 ●話しての意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話す聞くの学習で、質問の意図を捉えたり、話の展開に沿った質問を考えさせたりする学習を意識して取り入れ指導する。
書くこと	●国語A・Bともに領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える設問は、全国平均を上回った。 ●目的や意図に応じて書く事柄を整理することに課題が見られる。	・活動報告文を書く学習では、資料をもとに自分の考えを書けるように指導する。
読むこと	●国語Aにおける領域の平均正答率は、全国平均を下回ったが、国語Bにおいては、ほぼ同じであった。 ○目的に応じて図と表を関係付けて読む設問では、正答率が100%であった。 ●登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現を選択する設問が全国平均を下回っている。	・物語文の読み取りでは、登場人物の人物像を読み取るために、教材文の表現に着目させ、ラインを引かせたり、書き抜きさせたりして重要表現を押さえるような指導の工夫改善を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●国語Aにおける領域の平均正答率は全国平均を下回っている。 ○既習漢字の読みについての正答率は100%の設問もあった。 ●既習漢字の書きについての設問の平均正答率やローマ字の書きについての設問には課題が見られる。	・既習漢字の読み書きや、ローマ字の読み書きの練習を繰り返し行わせるなどして習熟を図るよう努める。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

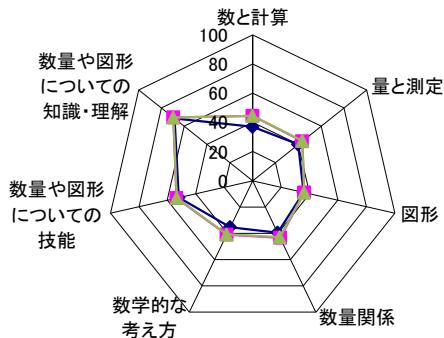
宇都宮市立上河内東小学校

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	74.8	79.9	80.5
	量と測定	83.3	75.9	77.0
	図形	75.9	76.9	78.8
	数量関係	65.4	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.5	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	71.4	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	37.0	44.5	44.4
	量と測定	40.0	43.5	43.7
	図形	35.8	36.2	36.3
	数量関係	39.5	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	35.4	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	51.9	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	68.5	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●算数A・Bともに領域の平均正答率は全国平均を下回っている。 ○割り算の性質やたしかめ算の方法、分数の乗法の設問では、全国平均を上回った。 ●除数が1より小さいときの商の大きさについての設問の正答率が低い。	・四則計算の基本的な問題について、まとめの問題を活用して習熟できるような指導をしていく。また、答えを確かめたり、見当をつけたりする習慣もつけていきたい。
量と測定	○算数Aの領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。 ●算数Bの領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○三角形の底辺と高さの関連についての設問では、正答率が100%であった。 ●単位量当たりの大きさの求め方についての正答率が低い。	・単位量当たりの大きさの求め方では、割り算の考え方の理解が不十分であり、立式につまずきが見られた。また、小数の割り算の計算ミスもある。まとめの問題などで定着を図るとともにもう1度割り算の意味について確認していきたい。
図形	●算数A・Bともに領域の平均正答率は全国平均を下回っている。 ○4枚の三角定規で作ることができる形を選ぶ設問では、全国平均を上回った。 ●直方体における面と面の位置関係を問う設問の正答率が低い。	・直方体の面と面の位置関係について、模型を使用して調べたり実際に直方体を作ってみたりする活動を通して定着を図る。
数量関係	○算数Aの平均正答率は全国平均を上回っているが、算数Bの領域では下回っている。 ○全体の大さきに対する部分の大さきを表す割合の意味についての設問では、全国平均を上回った。 ●示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表す設問で全国平均を下回った。	・文章問題に提示されている条件を図や数直線などを用いてイメージしながら立式できるように、日常の学習でいねいに指導していくことを繰り返していく。

宇都宮市立上河内東小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか。」の設問には、「食べている。」と答えている児童の割合が全国平均より高い。基本となる生活習慣なので、今後も推奨していく。

○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると答えた児童の割合が全国平均より高い。少し難しい課題にも挑戦させ、達成できた喜びを味わわせていきたい。

○家で宿題をしていると答えた児童の割合が全国平均より高い。家庭で学習する習慣がつくよう継続して指導していきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか。」の設問において、持っている児童の割合が、全国平均を下回っている。卒業後の生活を見通したり、児童一人一人の興味・関心を引き出したりして、夢や目標が持てるように働きかける。

●家で学校の予習・復習をしている児童は、どちらも全国平均を下回っている。中学へ向けて予習・復習のやり方を示したり、宿題以外の学習にも時間を確保させていけるように計画を立てることができるようにさせたりしたい。

●400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思っている児童の割合が全国平均より上回っている。日常の授業の中でノートに考えを書くことを多く取り入れ、文章を書くことに対して苦手意識をもたせないように支援していく。また、作文指導の時間を増やしていく。